えんじょい　なう!!

蝉時雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
えんじょい　なう！！

【Ｎコード】
Ｎ２８３１Ｘ

【作者名】
蝉時雨

【あらすじ】
４月。
この春、私は中学２年生になった。
正直先輩がいなくなって不安。
それに、私にも後輩ができた。
頑張らなきゃいけないのはわかってる。
私は弱いからすぐ弱音を吐いてしまう。
そんな私の背中を押してくれたのは親友。
ありがとう。

心から、ありがとう。

登校（前書き）

若葉と空の楽しい登校タイム！！

なのかな。

登校

４月、今日から私も中学２年生・・・かぁ。
１年も通い慣れている通学路を歩きながらそんなことを考えていた。
私、黄緑若葉（きみどりわかば）。
現在、てか、もうすぐ中２。
身長は少し小さめの１５０?弱。え?体重?マシュマロ１個分くらいかな?
・・・なんてね、嘘だよ嘘。
レディーがそう簡単に人様に体重が教えられっかってね。
まぁ、こんな私も今、中学２年生になろうとしております（笑）
こんな私が「若葉先輩」なんて呼ばれるのかな。

「おはよう若葉っ!元気かぁ?」
背後に強い衝撃が・・・
「っ～～!!痛ってーな!おい!!　こら逃げるか空っ!!」
私のことを突き飛ばしたのは水色空（みずいろそら）。
元気の塊。元気玉?
私を突き飛ばし、そのまま突っ走る空。
あ、止まった。チャーンスっ!!
私は猛ダッシュで空に向かって走る。
「くらえ空!俺が昨夜徹夜してまでお前のために・・・
～以下省略～
飛び膝蹴り!!」
私は、空に向かって昨夜寝る間も惜しんで考えた。
が、決まらなかった技名。
「まんまかよw」
考えたんだよぅ!これでも考えたんだよぅ!

あっさりと私が放った跳び膝蹴りをかわした。
「おのれ空！！かわしやがったな！！」
くそぉっ！！空のや・・・
「いや、動いてないし。届いてないだけじゃん。」
・・・やつめ！！！
「ひ・・・人はそれをよけたと言うっ！！」
自分でもこれは苦しいと思・・・
「うん。苦しい。」
ったんだが、やっぱりそうか。
後ろを振り向く。さっき電柱の近くで飛んだんだから・・・
「え～・・・っと。ねぇ、空??」
「何?」
「今の・・・なかった事にしようか。」
・・・1?も飛んでいない。あぁ・・・。き・・・気のせいだよな。
きっとそうだ。私は空の方に向きなおった。
空は後ろを向いて、口に手をあて、肩が震えていた。
と、次の瞬間
「っ～～！ぷっっ！！あーっはははははは！！
腹がっ腹筋がっ！！あーっはははは」
空は人目も気にせず、道路で、しかも、真ん中でのた打ち回っていた。
私の顔が一気に熱くなるような感じがした。
「わわ・・・笑うこと無いじゃん！！
ほらっ！！もうすぐ校門閉まっちゃうよ！！」
私は道路に転がっている空を無理やり立たせ、学校に急いだ。

登校（後書き）

『登校』での　ＮＥＷ　登場人物の紹介。（してる人もいます

名前：黄緑（きみどり）　若葉（わかば）
年齢：１３
性別：♀
性格：基本明るい
身長：１５０？弱
体重：マシュマロ１個分（嘘）
所属部活：吹奏楽部（柄合わず副部長）

つぎ。

名前：水色（みずいろ）　空（そら）
性格：基本元気玉
性別：♀
年齢：１３
身長：１５０？強
体重：不明
所属部活：吹奏楽部

二人とも基本は明るく元気な女の子です（▽、）

学校到着（前書き）

若葉と空は無事学校に到着しました！

学校到着

「はぁっ・・・はぁっ・・・っ」

せっかく走ったのだが、どうやらタイムオーバーらしい。
昇降口が閉まってやがる。
「ちぃっ！！！くそっ！！」
どこか開いていないか1つ1つ確かめてみる。
ここも、ここも、ここも、ここも、ダメか。
「おい空、このまんま家帰んね??黙ってれば体調不良でや・・・ぎゃっ！」
後ろに思いっきり引っ張られた。え??空??
「なにすんだよ！！そ・・・・」
後ろを振り向いた。そこに居たのは空ではなく、別の・・・
「ら・・・っ！だだ・・・大魔神！！！」
私の後ろに居たのは、私たちの担任教師の阿我咲夜(あがさくや)だった。
「おいおい、お前ら、2年になったっていうのに・・・
まだ遅刻する気か??なぁおい。この常習犯め！！」
咲夜は私のことを羽交い絞めにし抵抗させまいとした。
あ、空は??あいつめ、私を置いて何処に行きやがった！?
「おい！大魔神！空は何処に行った！！?」
くそっくそっあいつめ！！何処かで笑ってやがるなっ！！
クイックイッとズボンを引っ張られたような気がしたので下を見てみる。
「〜〜っ！なっなななななななななぁぁぁ！！！」
頬が熱くなるような感じがした。いゃ、熱い。でもって、赤い。
「「あーっはははっはははっははははーーはははっはははっは」」
咲夜と空はそんな私を見て大爆笑した。

「ほらっ！！入学式始まるんじゃないの？？早く教室行こうよ！！」
私は顔を真っ赤にしてそういった。
「「お前がいうセリフか？！」」
あ、そりゃそうか。

学校到着（後書き）

いやぁ～。二人とも遅刻しちゃいましたね（笑）

ってことで、『学校到着』での　ＮＥＷ　登場人物の紹介。

名前：阿我（あが）　咲夜（さくや）
性別；♂
年齢；２７
職業；中学校教師
担当教科；保健体育
性格；おもしろい、皆から好かれる
身長；１７０？強
部活顧問；柔道部

細身ながらもかなり力があるイケメン教師です。
若葉からは大魔神と呼ばれていますね

入学式　前編（前書き）

1年生がついに入学。不安だな・・・

入学式　前編

職員室。
大魔神（咲夜）から教えてもらった。
私は、2年・・・4組・・・か。
「ねぇ、空は何組だったの??」
一緒だったらいいなぁ。なんて期待をした。
「ん?あれ、咲夜先生から聞いてないの??」
だって、そんなの大魔神から聞くよりも、
「直接聞きたくてさ。」
空は、にへっとにやけ、頭をボリボリ掻いた。
「若葉と一緒。4組っ!!」
「わっ!!」
空が飛びついてきた。
私もすごい嬉しかった。
これで、3年間ずっと一緒のクラスだ!
嬉しい。すごく、すごく、すごく、嬉しい!!
廊下で抱き合ってる私たち。大魔神が職員室から出てきた。
「お前ら・・・入学式始まるぞ??
はやく教室行って体育館に来い。」
あ・・・、忘れてた★　すいません。
「空!」
「ん?」
「4階(くみ)までダッシュ!!」
「おぅ!」
「こらー!!お前たち!!廊下は走るなぁー!!」
聞こえない、聞こえない。
私たちは走り続ける。

嬉しいな。空と一緒のクラス！
今年はいい事ありそうだ。

２―４。
「えっと、席どこだ??」
教室中を見回す。あ、黒板に何か貼ってある。
「やったね若葉！私、あんたの後ろだよ」
どうやら、出席番号順じゃなくランダムみたいだ。
珍しいな、入学したときは出席番号順の席だったはずなのに。
空が、そこそこ、と指差した席に、カバンを乱暴に置くと
私たちは体育館に急いだ。

体育館。
「おそいぞお前ら！！」
到着早々大魔神に怒鳴られた。
どうやら、入学式が始まってしまったらしい。
「若葉、行こ?」
空が手を伸ばしたので、私は空の手を握り体育館に入った。
１年生はすでにステージに用意された椅子に座っていた。
しかも、３組の女子の名前が呼ばれている。
今年は、８クラスか。
私たちの学年と一緒か。
「おーぃ。おーぃ。」
どこからか私たちを呼ぶ声。どこだろう。
空が見つけたらしい。あ、顧問じゃん。
「よぉ、また遅刻かぁ?」
「「すいません。これから気をつけます。」」
お決まりのセリフを言う。
「まぁ、いい。座れ。次は無いからな」
こくん、と頷き座る。

今、４組の男子が呼ばれ始めた。
まだ、時間はあるな。じゃぁ、顧問の紹介をしようか。
名前は、灰白美雪（はいしらみゆき）
わかるとおり、我が吹奏楽部の顧問だ。
えっと、それから・・・
「おい。」
へ？？
「は、はい。」
「楽器、出して来い。ダッシュでな」
あ、そうか。入退場吹かなきゃいけないんだっけ。
やっちまったなぁ。せめて退場だけでも吹けと？
「はい。行ってきます！」
私と空はこそこそと体育館を抜け、音楽室へ走る。

音楽室。
「やべぇ、急ご！」
急いで楽器を組み立て、音出しを始める。
あ、時間ないんだっけ。
まぁまぁ、吹けるようになった頃、空が、
「行こう」
お、そっちも終わったか。
「じゃぁ、行くか。」
急いで体育館に戻る。

入学式　前編（後書き）

『入学式　前編』での　ＮＥＷ　登場人物の紹介。

名前：灰白（はいしら）　美雪（みゆき）
性別：♀
年齢：３８
職業：中学校教師
担当教科：音楽
性格：厳しい、真面目
身長：１６０？強
部活顧問：吹奏楽部

やっぱり吹奏楽部で遅刻はやばいね。
遅刻はしちゃダメだぞぅ？

入学式　中編（前書き）

若葉！　空！　急げー！！

入学式　中編

体育館前。
「っ・・・はぁっ・・・」
「若葉！あんまり走ると危ないぞ？」
え？頑張って早歩きしてんのに
走ってるように見えるのか？
「走って・・・ないよ？」
「私が追いつけないんだから走ってるの！！」
空は私より歩幅が小さいからじゃないのか？
まぁ、いい。
もうすぐで体育館・・・

体育館。
ステージ上、顧問が、美雪先生がたっていた。
マイクを持って。
「あ、来た来た。おーいステージ上がって来い！」
キーンなんていうマイクの嫌な音を立て
美雪先生は私たち2人を呼んだ。
「は？どーいうこっちゃねん！！」
何それ、聞いちゃいねぇよ！
「はーやーくー」
あぁ、嫌な音。耳に残るんだよねこの音。
しょうがない。
「行くか。・・・ってあれ！」
空はもうステージに向かって歩き出している。
待ってよぅ。

ステージ上。

「じゃぁ、あれやれ。んと、あれだフルートと一緒のやつ。」
は？！
「それではお聞き下さい！」
へ？！あ？！え？！は？！
私はもう目の前が真っ白になっていた。
空を見る。
え？知らなかったの？なんて顔をしてこっちを見ている。
え？知ってんの？まじ？
「曲・・・は・・・で・・・。オーボエ担当黄・・・葉、フルート担・・・色空」
緊張のあまりマイクで言ってるあるはずの言葉が遠く感じる。
「・・・若葉。」
空が呼ぶ。何？
「大丈夫。できるよ。いつもどおり。ね？」
ステージ裏右側、金管が覗いてる。
口ぱくで「が、ん、ば、れ、」終わってるっぽいね？
ステージ裏左側、クラ、サックスがいた。
手を振っている。そっちも終わったのか？
やる。しか、ない、の、か。
先生が説明終わってから3秒もたっていないが
私にはすでに5分以上の時が流れていた。
「・・・やるよ。」
「う・・・ん。」
大きく、1つ、深呼吸。
やるか。
曲の頭の合図を振る。

ステージ上。
パチパチパチ。全校生一斉の拍手。
終わった、の？　終わったのか。

ステージの幕が下りる。
演奏中の、記憶が、ない。頭真っ白。
「やればできんじゃん。」
背後からそんな声がかかった。
できたの？
「はは。間抜けな顔してやがる。さては頭真っ白だったな？」
お察しの通りです先生。
「このあいだより、すっげぇ、上手だったんだぞ。」
ちょっと嬉しい。
この間も上手って褒められたんだがな。
わかんねぇや。
あれ、歩け・・・ない？？
足が震えてる。その場にへたり込む。
ステージ幕下りてて良かった。本当に。
「あはっ・・・あはははははははは」
なぜか笑えてきた。
「あーっはははははは」
緊張が解けたからかなぁ。
「おい。」
頭を何かで小突かれる。
美雪先生・・・
「笑ってないでさっさとつば抜きしな。」
あぁ、・・・？！
音楽室じゃん！！！取り行かなきゃ？
わたわたする私を見て空が笑う。
「ほら。」
差し出されたその手には私の楽器ケース。
涙がにじんでくる。じぁっ
「ありがとぉごぜぇます！空様！」
楽器ケースを受け取ると私は急いで楽器の手入れを始めた。

入学式　中編（後書き）

今回はＮＥＷ　登場人物の紹介はないです。

いやぁ、若葉も頑張りましたね（笑）
若葉たちは、部活動紹介みたいなやつで吹いたみたいです。
他の部下は５分とかそんな短時間なのですが、
そこは美雪先生が頑張り、吹部の持ち時間は３０分でした。
１年生、入ってきてくれるといいね！

後残るは、１年生の退場演奏だけだね。もちょいだ！頑張れ！

入学式　後編（前書き）

もう入学式も後半に突入！！

入学式　後編

ステージ袖。
「手入れ終わったなー？それじゃぁ、次が始まる前に・・・」
皆が楽器の手入れが終わったあと美雪先生が言った。
「吹奏楽部の皆さんでした。
　次は、この部活紹介の最後の美術部です。
　それでは、美術部の皆さんお願いします。」
あ。と皆思った。
え？なぜかって？だって美雪先生の話しの途中じゃん。
美雪先生、こういうの嫌いなんだよね・・・
あーぁ、あとでとばっちり受けるの私等なんだがな。
まぁ、実行委員もわざとではなかろう。
なんせ、私等がいるのはステージ袖なんだから。
「・・・次が始まっちゃったから、静かに、静かに、静かに
　さっきの入場演奏したところにもどれー。」
途切れた話を美雪先生は続けた。
やけに『静かに』というところを強調して。
皆はこれ以上美雪先生を怒らせたくない一心で
すばやく、静かに戻った。

体育館端（校庭側）。
何のハプニングもなく演奏隊形に並べられた
（若葉、空が遅刻して他の皆が並べてくれた）
パイプ椅子に座る。
まだ美術部の発表の途中だ。てか、終わる。
「「ぜひ、美術部にきてくださーい！！待ってまーす！！」」
花梨（副部長）と片割れ（部長）が終めに入っていた。
パチパチパチパチ

全校生が一斉に拍手した。もちろん、私も。
「美術部の皆さん、ありがとうございました。
これで部活動紹介を終わります。
1年生は教室にもどってっもらいます。」
あ、そろそろ退場演奏？
美雪先生が中央に指揮棒を持って歩いてきた。
やっぱりか。
「8、7、6組の1年生は立ってください。」
美雪先生の手が上がる。
全校生が、私たちの演奏にあわせて手をたたく。

「終わりー。おつかれさんー。」
やっぱりまだ機嫌悪い・・・
う～ん。やっぱりとばっちり受けるか。
「早く楽器片付けちゃってー。」
「はーい！」
私たちが楽器片付けをしている間、皆教室に帰っていく。

皆（吹部）、楽器の片付けが終わりパイプ椅子を片付け始める。

「片付け終わったねー？お前らも早く教室もどれー。
あ、部活の時間、反省会するから感想考えときな。」
皆思った、『反省会＝愚痴＆ａｍｐ；とばっちり会』だな。と。
皆から美雪先生に聞こえない程度にため息をついた。
「わかったら早く戻れー！！！」
「はーい！！」

入学式が無事（？）に終わった。

入学式　後編（後書き）

『入学式　後編』での　ＮＥＷ　登場人物の紹介。

名前：欠伸（あくび）　花梨（かりん）
年齢：１３
性別：♀
性格：腹黒い
身長：１４０？弱
体重：不明
所属部活：美術部（副部長）

つぎ。

名前：大海（おおみ）　梓（あずさ）
性格：花梨同様、腹黒い
性別：♀
年齢：１３
身長：１４０？強
体重：不明
所属部活：美術部（部長）

梓は若葉から『片割れ』と呼ばれていますね。
なんでも生まれた病院が一緒で、ベッドも隣だったらしく。
どうでもいいですね。すいいませんｍ

自己紹介　男子（前書き）

入学式が終わり、若葉たちも2年生の教室へ。

男子の１２人の自己紹介

自己紹介　男子

２－４。
２年生になって新しく一緒になった人たちも居るこの教室内。
皆落ち着かない。ガヤガヤしている。
私も後ろにいる空と一緒にくっちゃべってる。
「ねぇねぇ、担任誰かな？若葉は誰がいい？」
「え？う～ん・・・」
ちょっと考える。
「大魔神は嫌だなぁ。」
「えぇ！何で？阿我先生いいじゃん。」
「なんでさぁ？あんな奴のどこがい・・・」
私の話を遮り、声が。
「はーい。静かにしろー。」
・・・。あれ、聞き覚えがありすぎる声。
前・・・向きたくないなー、なんて。
「皆私に注目ー。」
うん。やっぱり。あぁーやだなぁー。
「おい、若葉。お前遅刻したくせに私の言うことも聞けんのかー？」
周りからクスクスと笑い声が・・・
しゃーねー。もう逃げられんか。
「はいはい。」
はぁー。ため息をつく。間違いは無いようだ。
黒板にカツカツと名前を書く。
なぜか横書きだ。
「今日から、お前らの担任になった灰白美雪だー。
まず１年間よろしくなー。
じゃぁ、お前らにも自己紹介してもらうかなー。」
えぇぇぇーーー！！！

毎年恒例のアレか！やだな。つか、先生知ってるくね？
私も、この学年に知らない奴なんて一人もいないがな。
美雪先生はニヤニヤしてる。
「じゃぁ、出席番号順に並んでるからー。そっち！左端の方から順に・・・」
「え？！これ、今、ランダムに座ってるんじゃないの？！」
空が後ろに居るんだけど？？
「ばーーーか。横に出席番号順なんだよ。」
クラス全体にドッと笑いが起こる。
やだやだ！もー！それを早く言ってくれよー！
顔が熱い。
「わぁー、若葉耳まで真っ赤ー！」
空が私をからかう。
「わっ！ばっ！違う！これは本当の自分じゃないんだぁーー！！」
もう私はパニック状態。
空の馬鹿ーー！！
「あっははは。これでわかったろ？若葉。
じゃぁ、自己紹介男子から開始ー。」

一人目　「えっとー、金巾小から来た相羽英男（あいばひでお）です。」
あ、コイツいたんだ。前も一緒だった、秀才君？ってやつ。
私は『あいうえお』って呼んでる。あはは。
二人目　「銀山小から来た秋葉哲（あきばてつ）だ」
もうコイツは、あいうえお　みたいに秀才じゃなく、天才だ。
三人目　「か・・・かにゃ・・・金巾小から来ちゃ・・・来た、憂樹竜間（うきたつま）です・・・」
カミカミでやんの。コイツは極度の上がり性でさ。名

前と合ってないよな。
四人目　「江間和輝。西銅小からだ。」
　普段はこんな奴だけど、話してみると案外いい奴でさ。
五人目　「銀山小から来た、遠藤祐樹だ。よろしくな。」
　いっつもテンションＭＡＸな奴。一緒にいると疲れる。
六人目　「んと、金巾小出身の蛇弟蓮です。」
　コイツ結構しっかり者。仕事とかサボれないタイプ。
七人目　「西銅小出身の高橋瑞樹じゃ。」
　コイツはやけにしゃべり方が爺くさい。
八人目　「波崎勘太、１３才、男。あと、銀山小。」
　いろいろ変な奴。行動パターンが予測不可。
九人目　「銀山小出身、原田淳平だ。よろしくな？」
　コイツもいろいろ変わり者。
十人目　「西銅小出身のー・・・えと、あー、深瀬翔太です。」
　なんか、認知症？？さすがに自分の名前は忘れちゃダメっしょ。
十一人目　「金巾小出身、夜鷺雄です。好きな時間はご飯の時間です。」
　そんなこと誰もお前に聞いてねぇよデブ。
十二人目　「えとー、西銅小出身の、黄泉楼です」
　普通に黄泉朗でいいと思うんだよね。毎回さー。

女子が自己紹介に入ろうとしたときに、美雪先生が
「あーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー！！」
クラス全員が驚愕した。
「疲れＴＡ。」
あれ？何かおかしい。
「先生、もう一回お願いします。」
「ＤＡーかーＲＡー、ＴＵかＲＥＴＡ」
壊れた。美雪先生が壊れたぁぁぁぁーー！！

『か』しか平仮名で言えてない！？
重症だぁー！！誰か！誰か救急車ぁぁ！！
空が立ち上がり、美雪先生の後ろにまわる。
「先生、ちょっと失礼しますね？」
何をするかと思えば・・・
「はぁぁぁぁ～・・・」
え？拳（こぶし）に力を籠（こ）めて・・・？
「たぁっ！！」
後頭部いったーーー！！
「ふがっ！！！！？」
ぷしゅ～・・・。って、え？！大丈夫なの？！
「○～×▽！！≪→↑□？？？」
悪化したぁー！クラス全員（空は除く）が唖然としてる

自己紹介　男子（後書き）

『教室』での　ＮＥＷ　登場人物の紹介。（多いので名前と性別だけ

名前：相羽（あいば）　英男（ひでお）
性別：♂

名前：秋葉（あきば）　哲（てつ）
性別：♂

名前：憂樹（うき）　竜間（たつま）
性別：♂

名前：江間（えま）　和輝（かずき）
性別：♂

名前：遠藤（えんどう）　祐樹（ゆうき）
性別：♂

名前：高橋（たかはし）　瑞樹（みずき）
性別：♂

名前：波崎　勘太
性別：♂

名前：原田（はらだ）　淳平（じゅんぺい）
性別：♂

名前：深瀬（ふかせ）　翔太（しょうた）

性別；♂

名前：夜鷺（やさぎ）　雄（ゆう）

性別；♂

名前：黄泉（よみ）　楼（ろう）

性別；♂

美雪先生大丈夫ですかね？心配です・・・

１時間で自己紹介が終わるのでしょうか。

自己紹介　女子・・・に入れない（前書き）

美雪先生が壊れました（笑）

自己紹介終わるんでしょうかね？

自己紹介　女子・・・に入れない

２―４。
美雪先生がぶっ壊れました。
「○●▽…？！◆・・・！？～Σ＄」
余計なことしたな空・・・。
何か耳からガーガーって音聞こえるよ？
まじで大丈夫なの空？？
淳平が叫ぶ。
「おぃ！空！先生どうすんだよ！」
さらに叫んだ。
「もともとダメ人間なのに、さらにダメにしてどうする！
もうただのダメダメ人間じゃん！
てか、何語しゃべってんだよコイツ！
宇宙人か？宇宙人と更新中なのかコイツ？！
普段が宇宙人みたいな顔してるからか？
てか、コイツ最後の授業に俺に何ていったと思う？
『お前は宇宙人か？！』って言いやがったんだぜ？
今のこの状況見たら笑えるなぁ！おい！
お前が宇宙人じゃねぇか！！」
先生が壊れてるのをいいことに言いたいこと全部言いやがったぁ！！
てか・・・おいおいおいおいおい！！
私が立ち上がりそうになった瞬間、
祐樹が我慢できなかったのか淳平につっこむ。
「明らかにに後半違うよな？！お前の愚痴だよな？！」
哲が
「もうコイツほっといて皆で遊びいかね？！」
そうだったぁ！哲って天才的に頭いいけど、すごい悪なんだったぁ！

「いいねぇ！！」
おい和輝ぃぃ！こいつの話に乗るなよぉぉぉ！！
「そういうの！ダメだと思うな！」
蓮が立ち上がる。
「あぁ？！んだお前」
また始まった、哲と蓮の睨み合い・・・・。
こいつらと去年一緒のクラスだったからわかる。
おかげで、あの1年は退屈しないですんだってわけだ。
で、クラスが2つに分かれるんだ。
哲派と蓮派に。
ほら、やっぱり。ね？
え？私？もちろんどっちでもないし。
我道を進む。
しばらく殴り合いが続く教室内。
「ガ・・・ガガガ・・ピッピー・・・プーーーー」
え？
教室内の時間が一瞬止まったかのように思えた。
「ふっっっっっっっかぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁつ！！！」
お・・・おぉ。
「ほぉら。大丈夫だ」
空が偉そうにえばる。

キーンコーン・・・カーンコーン・・・
学校中に鳴り響く授業終了のチャイム

「「「「「「大丈夫だ、じゃねぇぇぇぇぇぇ！！！！！！」」」」」」
クラス全員で心のそこから叫んだ。
今まででこんな大勢で心が一つになったのは初めてのような気がする。

自己紹介　女子・・・に入れない（後書き）

女子の自己紹介に入る前に鐘がなっちゃいましたね（汗）

あーぁ。

また明日（前書き）

女子の自己紹介が終わらないまま1日が終わってしまいましたぁ

また明日

２―４。
「お前らー。帰りの準備しろー！」
あ、そうか、今日はこれで終わりか。
部活ねぇしな。
教室の後ろにあるロッカーにカバンを取りにいく。
クラス全員がいっきにここに来るので混む。
「ちょっとどーいーてー！」
「わっ！！」
押すなよ！振返ると後ろにいたのは・・・
またお前か空・・・
空が私と目が合うと不気味な笑みを浮かべ
「よぅ。さっきは笑をどぉも？若葉さん？」
「ぐっ・・・」
言い返せないので言葉につまる。
「お前ら早くしろー！！」
美雪先生が教卓をバンバン叩いて叫ぶ。
さっきから１０秒もたってないが・・・
「はーやーくーーー！！！」
さらに教卓をバンバン叩く。
皆が急いでカバンを引ったくり、自分の席に着く。
美雪先生が教室中を見渡し、全員が座ったことを確認し
「皆座ったなー？
えー、じゃぁ、何だ？あれだよ。んとー・・・」
英男の助言。
「ＨＲ（ほーむるーむ）？」
「あー、たぶんそれー。じゃぁ、それ始めるよー」
それ、って・・・

「はい明日の連絡ー
1？　数学？　持ち物：教科書？、ファイル？、とか？
2？　国語？　持ち物：数学と同じー？
3？　理科？　持ち物：国語と同じー？
4？　英語？　持ち物：理科と同じー？
5？　社会？　持ち物：英語と同じー？
あ、お前ら国社数理英の5教科そろってんじゃーん？
ま、ドンマイ？」
ドンマイ？！
「てかセリフ全部疑問形？？？？！！！！！！！」
我慢できずに立ち上がってつこむ私。
「何だー？文句あんのかぁー？！」
美雪先生の気迫に負け
「ないーっス」
座る。
「わかんないんだからしょーがねーだろー」
え？
「先生、そっちの方が問題だと思うんじゃが」
ナイス！ジジィ・・・じゃなく瑞樹！！
「むぅー。んじゃぁ、確認しに行ってくるから。大人しく待ってろよー？」
ガラガラ・・・・
シーン・・・
「っしゃぁ。皆帰ろーぜー？」
哲ぅぅぅぅ？！
あの美雪先生が大人しく待ってろって言ったんだぞぉ？！
「そ・・・そいうの！ダメだと思うな！」
きたー本日2回目ー！
ガラガラ・・・
「はい静かにー！」

「早っ！！！」

哲がビビってる。

まぁ、誰でもビビるよな。この驚異的なスピード。

「さっきので当たってた。」

え？

「「「「「「勘？！？！？！」」」」」」

真面目に？！

「もち！」

はぁ〜。

クラス全員のため息が聞こえるようだった。

「はい、解散ー。じゃぁ、明日なぁー。」

今日１日だけで疲れた。

肉体的にも、精神的にも。

また明日（後書き）

じゃぁね、また明日～

鞄（前書き）

若葉は鞄を取り返しに頑張っただけなのに散々だね（▽、）

鞄

黄緑家玄関。
「つ・・・つかれた・・・」
靴も脱がず倒れこむ私。鞄？あぁ。空が・・・
「って、あ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝ぁ〝！！！！！！！！！」
あいつに持ってかれたままだぁ！
玄関の扉を乱暴に開け空の家に向かって走り出す。

走れば5分くらいだろう。
と軽く思っていたのだが・・・
「・・・はぁっ・・・はぁっ・・・」
体力がほとんどなくなっている私には5分の全力疾走も困難だ。
「・・・っ！」
空の家のうち前に到着。もう・・・無理。
脇腹痛い。吐き気がする。頭がガンガンする。
「あら、若葉ちゃんじゃない。どうしたの？」
あ、空のお母さん・・・えと、瑞希（みずき）さんだっけか
「空が・・・空ちゃんが私の鞄持ったまんま帰っちゃったんです。」
あいつにちゃん付けなんてっ！！！
プライドが傷つきながらも、ちゃんと礼儀正しい子を通す。
「あら、もうあの子ったら。あとでお仕置きね。
　ブレーンバスター　あたりがいいかしら？」
あ、こいつ死んだな。よりによってブレーンバスター　か・・・
え？ブレーンバスター知らないの？ググっとけ。
「空ぁー？若葉ちゃんよ？あんた若葉ちゃんの鞄ちゃんと返しなさい？」
瑞希さんが不気味な笑みを浮かべながら、

でも、声の調子はいつも通りに・・・
バタッ・・・ガタガタ・・・バタン！！・・・ドタドタ・・・ドタドタ
すごい音してるなぁ。
バンッ！！
ものすごい音を立てて黄緑家の玄関が開く。
「ん。」
「え？」
え？！やけに素直・・・？
「いらないの？」
え・・・
「いや・・・いる。」
鞄を受け取る。
なんで・・・こんなに素直なんだ？いつもは・・・
瑞希さんの方に目をやる。
「？！」
ぎゃぁぁぁあ〝ぁぁぁぁあ〝あぁぁぁぁぁぁあ〝！！
怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い怖い！！！！
危うく声を上げるところだった。
落ち着け、落ち着くんだ。
あれは幻覚だ、幻覚、幻覚、幻覚ぅぅ？！
嘘言え！アレはもう鬼だろ！
凄い剣幕で睨んで・・・
え？！あれ？
瑞希さんが・・・消え・・・た？！
玄関から空のお父さんの隼人（はやと）さんが
マットを持って走ってくるのを見た。
「え？あ？」
あわてて空の方を見る。
「うあ！にゃぁあ〝ぁぁぁあ〝あ〝あ〝！！」

空の悲鳴・・・
隼人さんの担いだ分厚いマットが間に合った（？）
「ちぃっ！！！」
瑞希さんの舌打ち。
って　え゛え゛え゛え゛え゛え゛！！！！！！！！！
瑞希さんが空にタンを吐きかけ（るマネをして）家に戻る。
隼人さんもその後を分厚いマットを担いで家に戻った。
空は・・・？
「ってぇなぁ・・・」
首をゴキゴキならしながら・・・
「って無事だったのか？！」
「無事で何が悪い？！」
悪い何て言ってないのになぁ。
空の靴が私の顔面にめり込む。結構痛い。
つか、痛い。し、イタイ。
「もう帰れよ！用は済んだだろ？！」
あ、ひどい。

鞄（後書き）

名前：水色（みずいろ）　瑞希（みずき）
性別：♀
年齢：３６
職業：看護士　（元プロレスラー）
得意技：基本はプロレス技全部
性格：優しい？
身長：１６０？強

空のお母さんです（▽、）

名前：水色（みずいろ）　隼人（はやと）
性別：♂
年齢：３６
職業：大工　（元プロレスラー）
得意技：基本はプロレス技全部
性格：優しい？
身長：１７０？強

空のお父さんです（▽、）

黄緑家の夕食（前書き）

黄緑家の夕食でーす（▽、）

黄緑家の夕食

黄緑家。
私は空から鞄を取り返し（たって言うのだろうか？）
ようやく家にたどり着いた。
「くっはぁ～！！つっかれたぁ！！あぁぁぁ・・・」
リビングのソファにどっかり座り込む私。
本当に疲れた。
今までになかった・・・いや、あったな。
うん。それくらい疲れた。
足がヤバイ。ガックガクになっている。
「さっき空ちゃんのお母さんから電話あったわよ？
あんたに謝っててって言われたけど・・・
どうしたの？」
うっせぇなぁ。
「どーもしない。」
あ、これ私のお母さんね。普段はママって呼んでるけど。
綾羽（あやは）っていうんだ。
なんかさぁ、私の心配ばっかしやがってさ。
ちょっとは自分の心配もしろってんだ。
最近反抗期のせいもあるのか、いちいちイライラする。
「どーもしない。って・・・あんたねぇ・・・」
はぁ。
「ただ空に鞄を返しに行ってきただけだよ。
今これ以上ないくらい（あったけど）疲れてるんだよ。
ちょっとは休憩させてくれよ。」
「とは言うけど・・・あんた今日の夕飯当番よ？

私がしようか？」
あ、マジか！
「ん。いぃ。私やる。」
しゃぁねぇな。
私が当番制にしようって言ったんだし。
「あら・・・そう？じゃぁ・・・お願いね？
辛かったらいつでも言ってね？」
はぁ。いちいちいちいちうっせぇな。
まぁ、私はそういうママは嫌いじゃないんだけどね。
「うん。そうするよ。」
私は台所（キッチン）に向かう。
一通り材料はそろってるみたいだ。
「・・・さて、今日は何を作るのかな？」
まな板の上においてあったきれいに折りたたまれた紙を広げた
そこに書いてあったのは
「肉詰めピーマン・・・か」
料理名とその材料（４人分）と料理する手順（こうてい）だった。
えっと・・・なになに？

母メモ。

＜肉詰めピーマン＞

材料
ピーマン　・　８　個
＜種＞
合いびき肉　・　３００　ｇ　　玉ネギ　・　１／２　個
バター　・　１０　ｇ　　パン粉　・大さじ　４
卵　・　１　個　　塩コショウ　・　ナツメグ　・

適量

小麦粉　・大さじ　１　　サラダ油　・小さじ　２

＜ソース＞

トマトケチャップ　・大さじ　４

トンカツソース　・大さじ　２

しょうゆ　・大さじ　１

チリソース　・小さじ　１

ピーマンは縦半分に切って種を取る。

＜種＞の玉ネギはみじん切りにし、バターでしんなりするまで炒め、塩コショウをして冷す。他の材料と練るようによく混ぜ合わせる。

?ピーマンの内側に薄く小麦粉を振り、１６等分にした＜種＞を詰め、

表面に薄く小麦粉を振り掛ける。

?フライパンにサラダ油を中火で熱し、ピーマンを並べ入れる。

全体に焼き色がつくまで返しながら焼く。

?＜種＞側を下にし、蓋をして弱火にし、１０分蒸し焼きにする。

?器に盛り、混ぜ合わせた＜ソース＞をかける。

「よし。やるかぁ～！」

私はこのメモを見ながら、料理を始めた。

「いて」　チッ
「あっ！」　チッ
「うわ！！」　チッ
「ぎゃぁー！！」　チーン・・・
「出来たぁ！！！」
やっとの思いで出来上がった肉詰めピーマン。
私の手は絆創膏だらけ。
何でこんなに不器用なのだろうか。う～ん。
そんなことを思いながら食卓に運ぶ。
時計の方に目をやると７：００だった。
「作り始めてから３０分かぁ～。」
いいのだろうか？悪いのっだろうか？
私がうなっていると
「アレ？今日の夕飯ってお姉ちゃん作ったの？」
弟の樹（いつき）が、あの不器用すぎる姉がねぇ～
って感じで料理をまじまじと見つめる。
「で、ご飯は？」
後ろで母の声。
「ぇあ？ご・・・ごはんーーー！！！」
忘れてたぁ！
樹がいっしっしっしと笑っている。
あぁ、むかつく！
とは言うけど悪いのは私なんだよな。
急いで台所に向かう私に
「たっだいまー！」
お父さんが帰ってきた。

お父さんの名前は翔太(しょうた)。
ママと同様普段はパパ。
「おかえり、パパ。ごめんね、ごはんまだ炊けてないんだ」
パパは首をかしげる。
「家は肉詰めピーマンのときは食パンだろ？」
あ！！！
ママの方を見てみる。
「もう！余計なこと言わないでよ！楽しかったのに」
ぶーぶーしてる。
樹は？！腹を抱えて笑ってる。
「いーーーやぁーーーー！！！」
もう嫌ぁ。
たぶん、今、顔真っ赤だよ。うん。

いつもの黄緑家の光景。

黄緑家の夕食（後書き）

名前：黄緑（きみどり）　綾羽（あやは）
性別：♀
年齢：３８
職業：弁護士
性格：心配性
身長：１６０？強

若葉のお母さんです（▽、）

名前：黄緑（きみどり）　樹（いつき）
年齢：１２
性別：♂
性格：バカ
身長：１５０？強
体重：４５くらい？
所属部活：吹奏楽部（ｔｐ）

若葉の小６の弟、樹です（▽、）

名前：黄緑（きみどり）　翔太（しょうた）
性別：♂
年齢：３８
職業：政治家
性格：心配性
身長：１７０？強

若葉のお父さんです（▽、）

水色家の夕食　前編（前書き）

水色家の夕食でーす（▽、）

水色家の夕食　前編

水色家。
「あぁぁ・・・首が痛てぇ。」
私は首に手をあてながら、夕食の支度をする。
お母さんは、さっき私に2度目のブレーンバスターをくらわせ
自分の部屋にこもってしまった。
お父さんは、そのお母さんを部屋から出そうと頑張っている。
え？あぁ、私は若葉みたいにパパ、ママ、なんて呼んだりしねぇよ。
冷蔵庫の1番上の段をあさる。
入っていたのは・・・牛乳。
次の段。
入っていたのは・・・牛乳。
次の段。
入っていたのは・・・牛乳。
次の段。
入っていたのは・・・牛乳。
隣にある冷蔵庫をあさる。
一番上。
入っていたのは・・・ラップ。
次の段。
入っていたのは・・・コーヒーカップ。
次の段。
入っていたのは・・・蜂蜜。
次の段。
入っていたのは・・・スプーン。
さぁ、何を作ろうか。
「っておい！！！！！！！！！！！！！！

俺にホットミルクでも作れと？？？！！！

冷蔵庫に牛乳、蜂蜜だけかぁぁぁぁぁ？！？！

つか、冷蔵庫にラップと、コーヒーカップと、スプーンを入れるのかっぁぁ？？

「馬鹿かコラァァ！！！！！！！！！！！！！！！」

がっ。

何か（おかあさん）につかまれる。

ダンッ！！

痛い。

「だまりなさい。」

「ちょっと待てコラァ！

・・・あ、すいませ・・・」

「だまりなさい。」

痛い。つかビキっていったけど。

ダンッ！！！

「・・・ぅあ・・・しゅいませ・・・」

何か（おかあさん）は、私の首を離すと

・・・消えた。

「っ・・・取り合えず・・・生きてる・・・な。よし」

牛乳と蜂蜜で何が作れるかな・・・

「・・・やっぱホットミルクしかなくなぃか？」

この時間だと買出しも面倒だな。

どーせお金くれないだろうしな。

ん？

あぁ、妹使えばよくないか？

「明（あき）！！」

2階からドタドタとおりてくる音がする。

「なぁに？宿題中だったんだけど・・・」

「あ、わりぃわりぃ。買い物頼んでいいか？」

「えぇー・・・いいよ。何つくるの？」

あ、忘れてた・・・
「ちょっと待って。今メモするから。」
私が出来るとすれば・・・
空メモ。

＞かぼちゃカレー＜

材料　（8人分）
かぼちゃ　正味４００ｇ　　人参　１本
玉ねぎ　１個　　ホールトマト　１／２缶
ほうれんそう　１／２束　　市販のカレールー　１箱
バター　３０ｇ　　すりおろしにんにく　１片分
すりおろししょうが　１片分　　はちみつ　大さじ１
ウスターソース　大さじ１　　醤油　大さじ１

え？なんで８人分なのかって？
そんなの私が２人前、妹は１人前、親父が２人前、
ばばぁ・・・もとい親母が２人前で、残りが冷凍。
「・・・こんなもんか？」
私はメモを明に渡す。
「・・・蜂蜜はあるからいいよね？」
「うん。じゃぁ、よろしく。」
「あぅ。行ってきまぁーす」
よし、これで材料は大丈夫だな。
ご飯炊かなきゃ・・・
私は米とぎを始めた。

水色家の夕食　前編（後書き）

名前：黄緑（きみどり）　明（あき）
年齢：１２
性別：♀
性格：姉思い
身長：１４０？強
体重：３０とちょっとくらい？
所属部活：吹奏楽部（Ｐｅｒｃ）

若葉の小６の妹、明です（▽、）

水色家の夕食　後半（前書き）

水色家の夕食でーす（▽、）

水色家の夕食　後半

水色家。

明にお使いを頼んで１時間？
いや３０分くらいなのかな？
そろそろ帰ってきてくれると助かる．．．
なんて思ってたときちょうど明が帰ってきた。
「ただいまー」
「お！！おかえりー」
んじゃぁ、作るとしますか！
妹が！！！！！！
私はさっき書いてたメモを明に渡す。

メモ。

？かぼちゃは種とわたを取って乱切りに、人参は乱切り、
玉ねぎはみじん切り、ほうれんそうはよく洗って４～５ｃｍ幅に切っておく。
？鍋（もしくは深めのフライパン）に
バターとおろしにんにくとおろししょうがを入れ火にかけ、

香りが立ったら玉ねぎを加える。
?玉ねぎがあめ色になるまでじっくり炒める。（１０～１５分。）
あめ色になったら人参を加え炒める。

?かぼちゃと水（分量はコツ・ポイントを参照）とはちみつを加え、
煮立ったらあくを取ってフタをして中弱火で２０分程煮込む。
?※煮込んでいる間、何度か様子を見て底からかき混ぜる。
?ホールトマトとほうれんそうを加え混ぜ、更に１５分程煮込む。
（コツ・ポイント参照）

?一旦火を止めてカレールーを割り入れ、
ウスターソースと醤油を入れ混ぜたら再び５～１０分程煮込む。

?出来上がり♪

「・・・作れと??」
明はメモに目をやってから私を見た。
そんなの、答えはわかってるくせに
「あったりまえじゃぁーん
　出来たら呼んでーーそれまで寝てるからー」
「はーいはい。どーぞごゆるりとー」
にゃはは
やっぱり妹っていいなぁ～
私はソファにごろんと横になる。

まだ首が痛んだ。
「・・・はぁ・・・」
ため息は自然と出るもんだな。
でも幸せ逃げるらしいよ？
吐いたら吸わなきゃいけないじゃんね。
めんどくさい。
どーせ出る分も幸せなんて
無い・・・く・・せ・・・に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

「・・・ん・・・お・・・ちゃん！お姉ちゃん！！出来たよ！」
「んぁ・・・」
どれくらいたったんだろう。
私は目をこすって立ち上がる。
食卓にはもう綺麗に盛られているカレーとパン。
そしてお父さんが説得に成功したのか
お母さんも座っている。
「空・・・早く」
・・・機嫌悪いのかしらね。
ま、いいわけないか。
あんだけ怒らせたんだから。
急いでいすに座る。
「それでは・・・」
「「「「いただきまーーーーす！！」」」」

水色家の夕食　後半（後書き）

空は生きて夕飯を食べることができましたね（笑）

仮入部前打ち合わせ（前書き）

入学式から早数週間。
1年生の仮入部期間スタート！

仮入部前打ち合わせ

職員室。
私が職員室の扉を開けたとき
「よーし！1年生はー・・・褒め殺せーー！！」
いきなり美雪先生の声が職員室中に響き渡った。
「は？」
わたしはつい美雪先生に向かってそんなことを言ってしまった。
「あ、しまっt・・・」
母音を発音する前に美雪先生に制服の襟首をつかまれた。
それも驚異的な力＆スピードでだ。
「ごごごごめんなさいごめんなさいごめんなさい」
仏説摩訶般若波羅蜜多心経
観自在菩薩　行深般若波羅蜜多時　照見五蘊皆空
度一切苦厄　舎利子　色不異空　空不異色　色即是空
空即是色　受想行識亦復如是　舎利子　是諸法空相
不生不滅　不垢不浄　不増不減　是故空中
無色　無受想行識　無眼耳鼻舌身意　無色声香味触法
無眼界　乃至無意識界　無無明亦　無無明尽
乃至無老死　亦無老死尽　無苦集滅道　無智亦無得
以無所得故　菩提薩？　依般若波羅蜜多故
心無？礙　無？礙故　無有恐怖　遠離一切顛倒夢想
究竟涅槃　三世諸仏　依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提　故知般若波羅蜜多
是大神呪　是大明呪　是無上呪　是無等等呪
能除一切苦　真実不虚　故説般若波羅蜜多呪
即説呪曰　羯諦　羯諦　波羅羯諦　波羅僧羯諦

菩提薩婆訶　般若心経　ぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！！！！！！！！

「意味がまったくわからん！般若心経は別の意味だぞー。」
心が読まれ取るーー！！
怖ぇぇ怖ぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！！！
「それより、今日の1年生仮入部どうするかーー
　って話し合ってるんだー。
　なんかねぇかー？」
あ、はにー（由美香）とひぃ（緋美香）がいるぅ！
つか仮入部つった？？
「え・・・仮入部？？
　今日からなんですか？！？！」
え！何それ！まじで！！
職員室中にクスクスと笑い声が・・・
まじなのか！
「知らなかったのかよーー」
３人が同時にため息を付く。
「知ってなきゃいけなかった？？」
むぅ。言ってくれればよかったの・・・
「おい！副部長！！！！！」
「に・・・って。
　はい！副部長！！！！！」
びっくりしたじゃんかよぉ！なんで急に叫ぶかなこの人は
「はぁ～・・・
　いいや、こいつ使えねぇ」
あ、なんてひどい。
「ほっときましょうよこんなやつ。」
あ、緋美香ひどい。
「そうですよ、いっつもこんなんじゃないですか。
いい加減にしろよって言ってやってくださいよ。」

あ、由美香もっとひどぃ。
由美香がさらに付け足す
「だから●●●●●●なんていわれるんで・・・」
「んにゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ
ぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！！」
あぁぁぁ！！！！！なんて酷すぎる！！
酷すぎて漢字になったじゃないか！！
この私が漢字を使うなんてよっぽどのことだぞ！
おい若葉ぁーさーけーぶーなーよー・・・
一応ここ職員室だぞぉー・・・」
あ、しまった！
ごめ・・・すいませんでした」
ここは素直に謝ったほうが得策だよな。
「で、話し戻すぞ。
やっぱり褒め殺しだろー？」
「でも、褒めるほど上手じゃないんじゃないですか・・・
かなり疲れますよ。私達がね。」
「そこをなーんーとーかー・・・」
「んじゃぁ、これとかどうですか？
んと、新入歓迎演奏的な？」
「それは部活動紹介でやったじゃーん。」
「む・・・むぅ・・・。話に入れない・・・」
「ん~・・・やっぱり褒め殺しですかねぇ・・・」
無視ですか！あぁそうですか！もう！頭にくる！
もういい、部活行くもん。
楽器吹かせてあげてうんと褒めてやる。
もー、どーにでもなりやがれってんだ！！
「おーい若葉ぁ褒め殺し決定なんで
皆にそー伝えといてくれなー」
はいはい！あーそーですね！ふんだ！

私は職員室のドアを乱暴に閉め・・・
られないんで丁寧にしめて
ドア付近に転がっている鞄を引ったくり廊下を走って
階段をかけのぼり音楽室に急いだ。

仮入部前打ち合わせ（後書き）

妙に説明口調になってしまいました（▽、）

『仮入部前打ち合わせ』での　ＮＥＷ　登場人物の紹介。

名前：浅木（あさぎ）　由美香（ゆみか）
年齢：１３
性別：♀
性格：外側は礼儀正しい子で内側はかなり黒い。
身長：１６０？弱
体重：不明
所属部活：吹奏楽部（部長）

名前：沙蓑（さみの）　緋美香（ひみか）
年齢：１３
性別：♀
性格：外も内もちょい黒い子
身長：１５５？弱
体重：不明
所属部活：吹奏楽部（副部長）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2831x/

えんじょい　なう!!

2011年12月27日21時45分発行